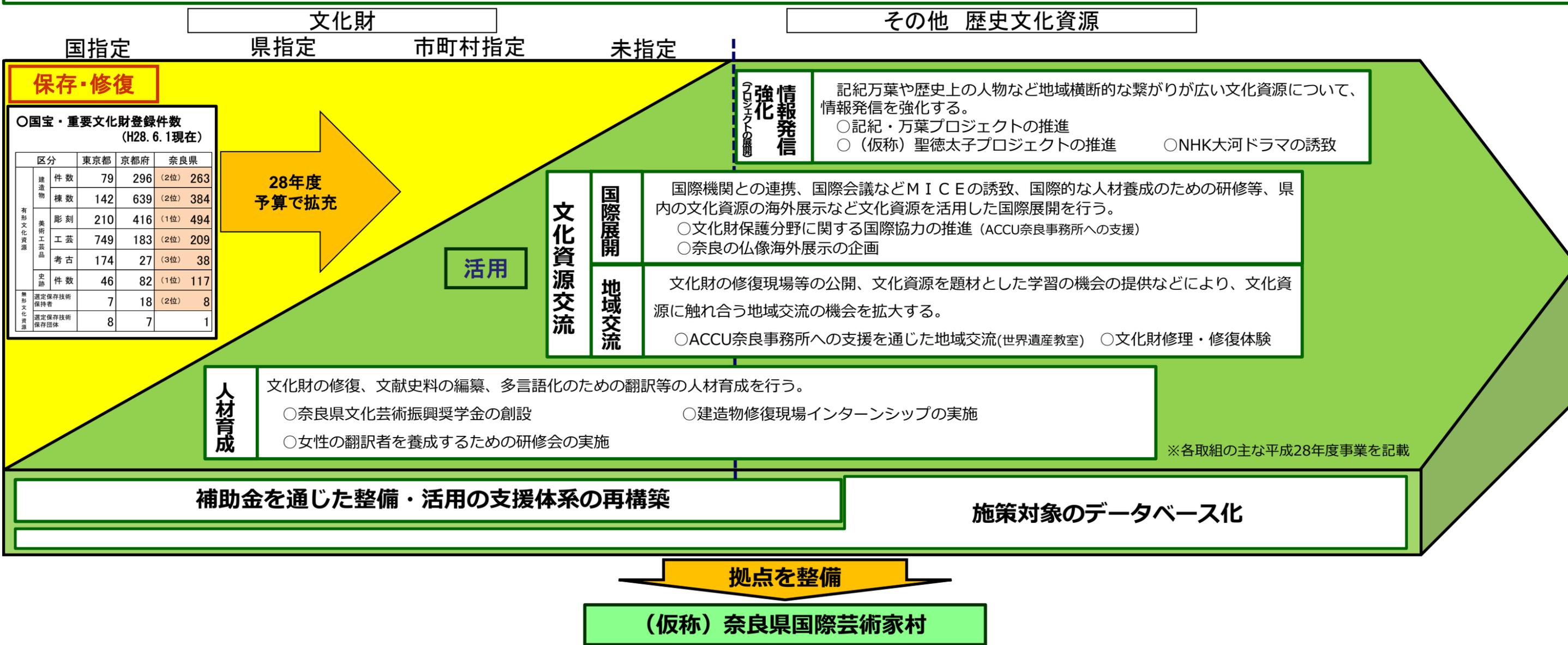


- 本県は、国指定文化財件数が全国第3位であり、3つの世界遺産を有しているなど、「文化財」の宝庫。「文化財」の「保存・修復」について、28年度予算において、県文化財保存事務所で実施している国・県指定文化財の保存・修復の予算が増額するとともに、市町村指定以下の「文化財」に支援を拡充。
- こうした「文化財」の「保存・修復」のみならず、施策の対象を古事記・日本書紀・万葉集を始めとする文献資料、歴史上の人物及びそれらに基づく伝承・旧跡など「歴史文化資源」全般に広げ、その「活用」施策を展開しているところ。平成28年度予算において、「文化資源活用補助金」を創設。
- （仮称）奈良県国際芸術家村を、①「文化財」の「保存・修復」と②「文化財」を含む「歴史文化資源」の「活用」に係る施策を総合的・一体的に展開する拠点として位置付け、整備。その際、官民協働、地域間連携、政策間連携を図る。



- 文化財を含む歴史文化資源の修復・活用の拠点**

 - ・県文化財保存事務所等の移転及び選定保存技術保存団体等の誘致 (P 2～P 4)
 - ・記紀・万葉プロジェクトをはじめとするプロジェクトの展開 (P 5)

文化資源交流の拠点 (P 6)

 - ・ACCUとの連携による国際会議などMICEの誘致、国際的な人材養成研修
 - ・学術会議、フォーラム、シンポジウム等、大学等のセミナーハウスとしての活用
 - ・文化財の修復現場の公開など地域住民や来訪者が歴史文化資源と触れ合う学習・体験・研究の場の提供

人材育成の拠点

 - ・文化財修復技術の伝承、翻刻者・翻訳者の養成など

特色 (P 7～P 9)

 - 官民協働** 管理・運営等を検討するため、官民の関係者で構成する協議会を設置
 - 地域間連携** 候補地自治体(天理市)との連携
 - 政策間連携** まちづくり(道の駅・サイクルステーション)、産業(農産物直売所・加工所、レストラン、伝統工芸品展示即売所、制作体験)、観光(周辺への周遊を含む着地型観光)等
- 県や国など他機関との連携**

 - ・県橿原考古学研究所、附属博物館(公開講座、発掘現地調査、常設展、特別展等)
 - ・県図書情報館、万葉文化館(公開講座、記紀・万葉関連の文献資料等の貸出し等)
 - ・県立大学(シニアセミナー等) ・国立国会図書館(古典籍等のデジタルコレクション等)

拠点施設を活用した良質なイベント等の充実

将来的には文化・芸術振興の総合的な拠点へ

県文化財保存事務所等の移転及び選定保存技術保存団体等の誘致について

- 県及び天理市の行政機能の移転と選定保存技術保存団体等の誘致を検討。
 - ・ 移転 → 県文化財保存事務所(歴史的建造物修復)、天理市文化財課(埋蔵物発掘)
 - ・ 誘致 → 選定保存技術保存団体等 (仏像等彫刻の修復、絵画・書跡・工芸等の修復)
- 選定保存技術保存団体等の誘致に当たっては、条件として①施設の水準、②一定の作業量の確保、③使用料の水準(減免等)などの検討が必要。

	県文化財保存事務所 【建造物】	天理市文化財課 ※樞考研と連携 【考古・史跡】	選定保存技術保存団体等 【美術工芸】		
			仏像等彫刻	絵画・書跡・工芸等	
歴史文化資源の修復・活用・人材育成	修復等の対象	国指定・県指定・市町村指定の建造物の修理 (現在も上記の修復を実施)	天理市内の史跡・古墳等の遺物の復元 (現在は旧幼稚園校舎で遺物整理・復元作業を実施)	県指定・市町村指定・未指定の仏像等彫刻の修復	県指定・市町村指定・未指定の絵画・書跡・工芸等の修復
	修復現場等の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物修理作業(ガラス張りにして公開)解体部材の補修作業(出張所から持込)彩色部材の処置及び詳細調査(〃) ・出張所現場見学会のコーディネート 芸術家村を出発点として保存事務所の5出張所で見学会を実施 各現場年間1回(数日)程度 ※現在、土日勤務がないため勤務シフトの変更が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・遺物整理・復元作業(ガラス張りにして公開) ・別途、近隣の古墳めぐり見学会等も実施 ※人員配置、勤務体制等の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・仏像等彫刻の修復作業(ガラス張りにして公開) ※土日勤務がない場合、検討が必要 ※移転ではなく、職員の派遣対応とすることなどについても検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画・書跡・工芸等の修復作業(ガラス張りにして公開) ※土日勤務がない場合、検討が必要 ※移転ではなく、職員の派遣対応とすることなどについても検討が必要
	修復現場での説明	・修復作業から1日数回解説			
	展示	<ul style="list-style-type: none"> ・解体部材の展示、修理成果の報告 ・修理時作成図面・写真・報告書の公開 	・出土品の展示	<ul style="list-style-type: none"> ・修復した仏像等を一定期間展示 奈良時代の色彩をレプリカでハンズオン展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・修復した絵画・書跡・工芸等を一定期間展示
	人材養成	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統大工等の人材養成施設の運営 文建協、保存技術団体等との連携 ・県立高校建築工学科生徒の受入 ・国際的な養成(ACCU奈良事務所) アジア太平洋地域から研修生を受入 対象人数:20人程度 期 間:1ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学専攻の大学生の受け入れ 対象人数:5人程度 期 間:1か月(夏休み期間)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財修復を目指す大学生の受入 対象人数や期間について要検討	
文化資源交流	講演	・伝統大工等修復業者や学芸員による講演(月数回) 一般来訪者、県民を対象 ※①県内小中学生を対象とした郷土教育、②県外からの修学旅行、③美術系大学生等に対する研修、④アクティブシニアの生涯学習等を予約制で実施することも検討			
	製作体験	<ul style="list-style-type: none"> ・縮小模型等の製作体験 ※①県内小中学生を対象とした郷土教育、②県外からの修学旅行、③美術系大学生等に対する製作体験、④アクティブシニアの生涯学習等を予約制で実施することも検討	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳等の発掘体験 埴輪、器、勾玉等制作体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・要検討 	

県文化財保存事務所および天理市文化財課の修復イメージ



選定保存技術保存団体等の修復イメージ

